

週報 寫眞

編輯部報情閣内  
ンセ十・號八十七第・日六十月八

昭和十三年八月十六日 第三號 編輯部報情閣内 昭和十四年八月十六日發行 一冊 定價 日本郵政 第七十八號



斷乎と守る北洋の權益







# 益權の洋北る宇と乎断

ソ連領カムチャツカ東岸の運路は尺を測せぬほど深い。その運路を突き破つてボツカリ浮き出たクロノツカヤ峯を越えることはごく稀である。船尾に日の丸をはためかせる農林省の監視船は、丸は領海にまで近づき「クロノツカヤが空を現はしたら最悪風がやつて来る」と漁夫達に厄病種ひされる山面を眺めたのである。富士山より高いクロノツカヤの山ひたにはいまほ残雪も深く北國の面影を残してある。

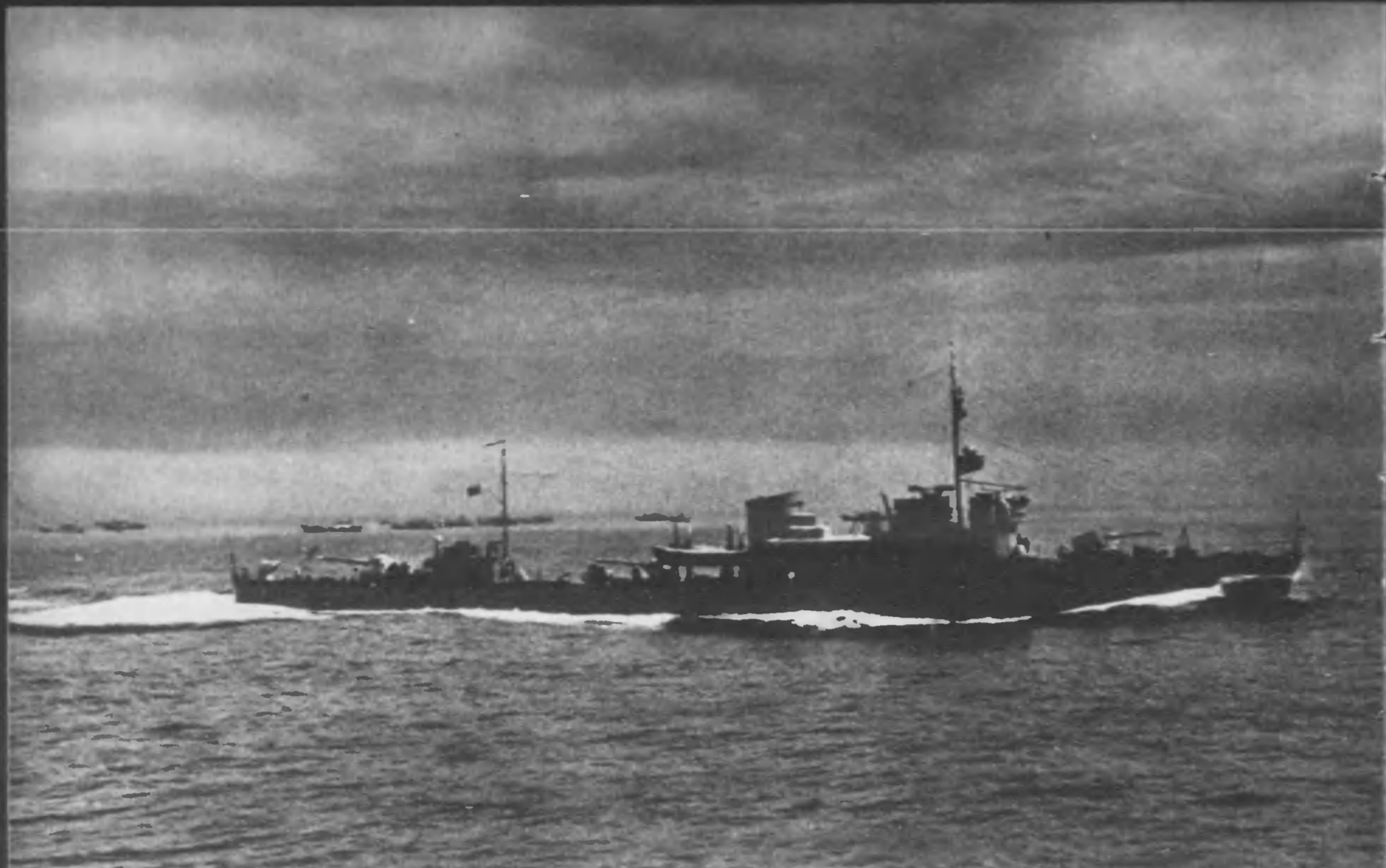


旅に求めよ  
日本の姿

省 道 鐵

悠久三千年  
巖とかぐやく山や川  
日の丸かざして  
我等は行く  
(大山にて)





公海で行ふ沖取漁業もソ聯の不法からいろ／＼と問題を抱す。この無意味な紛争を避けるため北洋の東海に漁船を手配した母船は小伏船の離りを互に監視し、互にいち／＼監視し、互に離りを待つ。

ソ聯領カムチャツカのコズロフ岬沖合三海里、天下の公海で駐輪の沖取に従事するわが漁船。一隻の母船を監視する捕鯨船は今漁場に向つて母船を離れる。

ソ聯運送艦キーロフは北洋の漁場に渡濤を立てわが漁船に威嚇の態度を示す。

三機編隊のソ聯機はわが漁船の上をこれ見よがしに飛び、飛行機まで動員するソ聯の漁場監視はまさに狂気の極みである。

北洋特有の濃霧が閉ざさうか海が荒れようか捕鯨船は東海漁場に向ふ。



# 益權の洋北る宇と乎断

撮影 内閣情報部





# 北の生命線 北洋漁業

日ソ漁業協約交渉は昨秋から本年初頭にかけて、ソ連邦の不法なる要求のため紛糾を重ね、漸く四月に至つて兎に角暫定協定の成立を見たことは周知の事であり、然し協定の成立が直ちに北洋漁業の安定と平和を齎すものではないことは、従来からソ連邦の態度、交渉の経過に徴し充分豫想されたのでありますが、果して本年北

洋の漁期開始と共にソ連邦の我が權益漁業に對する妨害、壓迫は全面的計画的に擴大し、或は漁場間の通信連絡運輸を目的とする所謂本部船の査証拒否、多數の漁場行幹部社員に對する渡航禁止、我が漁船の拿捕等の不法壓迫を始めとし、現に毎月漁場から報告されつつある作業妨害の事例は既に百を以て數へるやうな状態にあるのであります。

北洋漁業の現状は現在日ソ漁業協約に基づく獨逸漁業を中心とする運搬は非常に目覚ましく、此等漁獲物は鮮凍凍結、同鹽魚製品、蟹類を合せて年産一億圓に上りその中五、六千萬圓を海外市場へ輸出し、時局下最も緊切な外貨取得上重大なる役割を演じてゐるのであります。毎年四月頃より九月にかけて此等北洋へ出漁する従業員数は四、五萬人の多きに上り、或はカムチャツカ、北千島の陸揚漁場には或は數千噸の海の工場ともいふべき母船に、或は二、三十噸級の漁船上に、何れも三、四ヶ月の漁業労働をなし、縦横に北洋の漁場を馳騁して北洋第一線の守を固くしてゐるのであります。その勇敢な活躍は日本人ならで

は決して行ひ得ないものとして世界の認むる所のもので、最も日本の性格の顯著な産業であります。

本年四月に成立した日ソ漁業協約暫定協定は本年一杯で期限が終了することになつてをり、本年末ともなればソ連邦は昨年にも増して益々權益の縮減を企圖し來るであらざるや、我々はどこまでも既得權益を守るために斷乎として闘つてゆきたいと思ひます。

露領水産組合  
副組長 田中丸祐厚



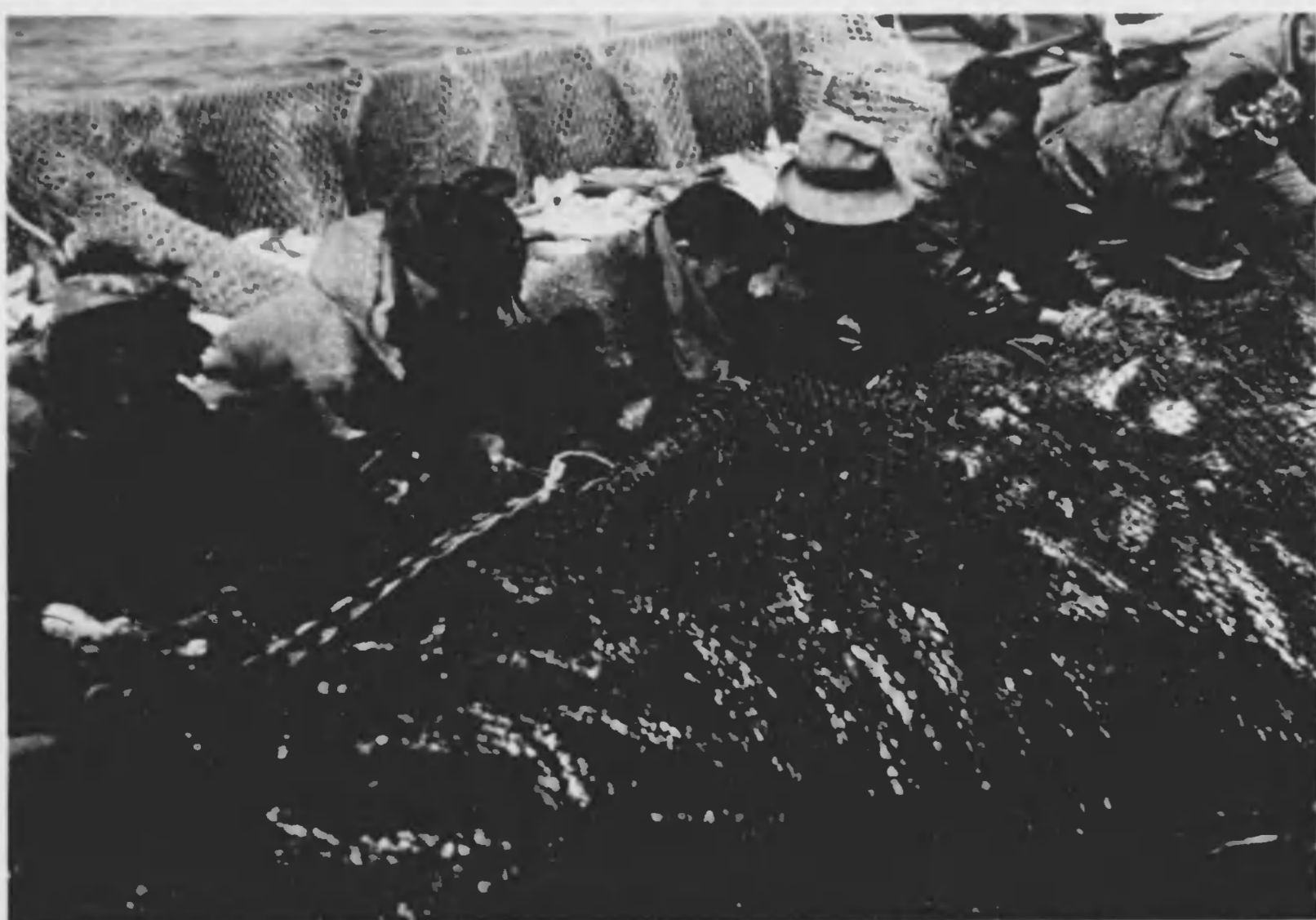
獨逸船は毎日午後漁場に出かけ夕刻網を下して網の流れと共に夜明けを待つ。夜が白みかける午前二時頃になるとエンヤと網をたくり上げる。その網目に首を突込んだ銀鱈に漁夫の喜びは盡く。

鮭、鱈の沖取は全部流し網で漁獲する。流し網は巾五間、長さは二連から三連位ある。これを川崎船、獨逸船(二十トから五十ト位)に積んで母船から二十連三十連の沖合に運び適當な漁場で真のやうにともら流す。

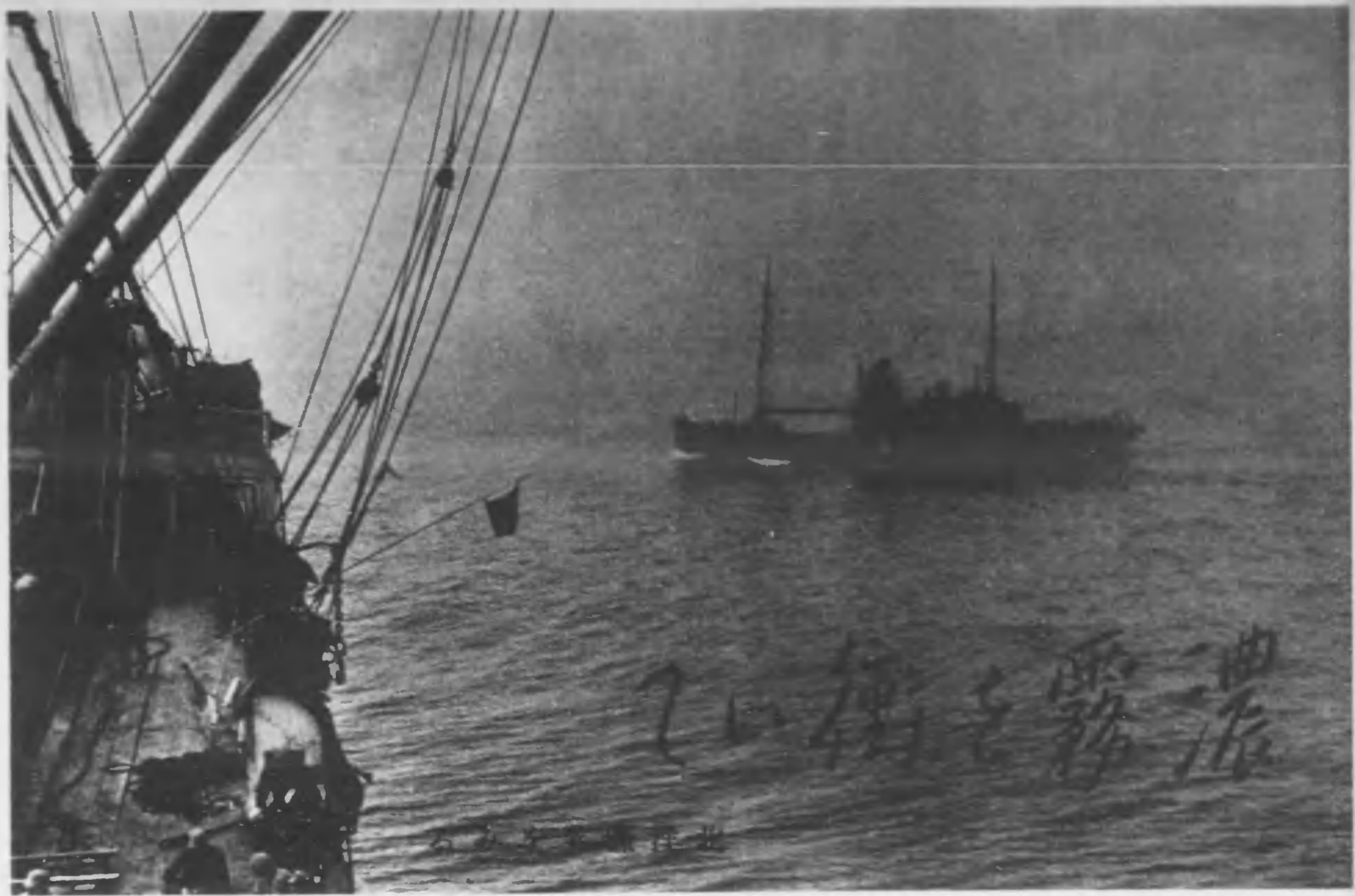


公海で行ふ沖取漁業に對し、領海で行ふ陸揚漁業がある。これはソ連領のカムチャツカ沿岸、北千島沿岸で行はれる。陸揚漁業の網は流し網と建網の両方を使用する。

建網は定位して幾近くから五千尺位網を張り、その先が兩側に袋網となつてゐる。この袋網に入つた鮭は漁夫のかけ聲とともに二隻の子船に手くられ漁獲される。







### 濃霧

六月×日  
小舟を出帆してから一昨夜、今日も濃霧、海を東北に向つて走つてゐるさうだが、自分には一向船が進んでゐるやうには思へない。尤もスエターを着たままの寒さになつたし、海面上に鉛筆で引かれたコースを見ても、船は時速七哩といふからさう信じなければならぬのだが、自分にはどうしてもこの船が大きな網のやうな濃霧の中にくるまつたまゝいつまでもちつとしてゐるやうな気がしてならない。

空も海も薄らぐよりした鉛色で境はない。たゞ波のうねりがほんの五十メートル位先までぼんやり見えるだけで、明けても暮れても何の變りもない。いつまでも霧れぬ濃霧、何處へ行つても止まぬ單調な波のうねり、遠く聞える鈍い機關の音、鳴らしてける響、そろ／＼と退屈も骨身にこたへてきた。船には絶對強いと公言した自信も怪しくなつてきた。これはいけないと思ひ出すと、船の揺れるのが愈々氣になり出した。頭が變になつてきた。

### 沖取漁場

六月×日  
今日は目的地に着くらしい。風呂の中で悟りを開いてどうやら船酔いだけはまぬがれたが、濃霧の中間の期間は長かつた。全くやれ／＼と思ふ。だが目的地には来るといふのでおととも明日の晩には入し獲りに土を踏めるんだと楽しい氣持で朝のうちにすつかり荷仕度も一時間まで待つたが来な。三時四時と六時になつたが、形も見えぬ。晩飯もそこ／＼にしてブリヤチに昇つて目を皿の様にして待つたが、突如船も出帆した海はたゞ徒らに淡々と静まつてゐる。

カムチャカ山の山にかたむきかけた夕陽を受けて無数の網が洗場から流れる魚の鹽物にむらがつて、平かに今日の日を終らうとしてゐる。海の上の悠長さは大分慣されて来たが、上陸するといふ明日の期待が大きかつただけに流石に胸がおさまらない。もう今からは船が来て、明朝まで出帆は出来ない。と宣告されて着のみのまゝベッドに體を投込む。

七月×日  
とろりとまとつた雨を呼び起される。昨夜おそく入つた油桶船がやがて出帆するから準備をしてくられよう。飛び起さる。準備もなにもない。昨日から準備してゐるのだ。時計を見ると、午前零時半、月明りの真夜中、當直の人に送られて出帆する。百噸といふから獨航船よりすつと唄いたらうと期待したが容積は大きくても内容は同じだ。特別に寒いベッドも無い。船の人は氣の毒がるが、こちらはもう驚かない。當番舵手の空いてゐるベッドにもぐり込んで眠る。

朝ブリヤチに出て見ると、霧に濃霧は無い。このまゝ突つ走れば今日の午後は北千島守島沖にかゝれる。風は相當強く船首にぶつつかる波は勇壯に白銀の飛沫を上げて甲板を洗ふ。

ふとブリヤチに降りると船長と舵手が緊張して何か話し合つてゐる。話しに割込んでみると、ソ聯快速艇に追ひかけられてゐるらしいといふ。早速望遠鏡を借りて沖を眺めてみる。オペラグラスのやうなものでハッキリ見えないがカムチャカ島の陸地近くを灰色がかつた白い船が本船と平行に進んでゐる。

「こゝは陸地から十哩以上も離れてゐるから何も恐れることはないでせう」  
「いや向ふは快速を利用してこちらを沖の方から陸地へ追ひ込んで、三哩以内の領海に入つたといつて捕へるんです」  
「追ひ込まれても逃げなければいぢやありませんか」  
「大砲を持つて脅かしますからな」  
「緊張した空氣は既に全船を覆つてゐる。」  
「本船の進路へ向きをかへました」  
と、見張りがどなつた。

船は直ちに進路を沖に向け直した。全速力！しかし全速力といつてもこちらはわづか七哩以上を出ないのに向ふは二倍以上の速力があるのだ。而もこの船には無電はない。あと三時間も走れば千島沖たがどうなることだらうと、かたづけのんで沖を見、陸を見するうち、彼方から濃霧がやつてきた。

「あの濃霧に本船が突込んだらすぐ南西方向を變へる」  
一分、二分、向ふの船が濃霧で見えなくなつたと思ふと、本船も濃霧の中に突込んだ。もう何にも見えない。

「危懼一髪、方向を轉じて南へ」  
七月×日  
昨夜おそく北千島嶼探検艇に投錨。あの快速艇はどうしたらうと思ひながら甲板に出て迎へのランチを待つ。

探検艇が見える。ランチが来た。棧橋に着いた。ランチから勇躍棧橋に飛び移る。棧橋が震ると足に砂がサク／＼と當る。一ヶ月振りの上陸だ。緑の草が風にさや／＼とゆれるのがなつかしく胸を打つ。昨日の快速艇の事ももう遠い昔のやうな氣がする。

(カメラマンS.M生)

北千島の嶼からカムチャカ島を望む



### 獨航船

七月×日  
今日は祝もいし魚の情況もよさうなからといふので沖の流網の影に出かける。午前十一時早目に朝食をすまして會社所屬の獨航船第九(五十噸)に乗る。なるほどお天候はよさうだ。波も静かだ。十二時過ぎ出帆、南東へ向けて時速九哩の速さで走つてゆく。

三十分も走つたかと思ふ頃雲が少し擴つてきた。波も少し出てきたやうだ。まゝよ、少し横にならうと思つて船尾の小さな室へ入る。棚のやうなベッドはあるがまるで倉庫だ。酒、味噌、醤油、荷物、洋庵の桶等が所せまに置いてある。一種特別な船の匂と濃霧の匂が何ともいへない匂となつて鼻をつく。窓を明けると寒い。船の動搖がはげしくなつてきた。もう起きてもゐられない。大變な所へ来たと後悔したがもう追つかない。

夕食の知らせを受けて室外へ出た時は今朝の天候はどこへやら完全な暴風である。歩かうにも歩けない。狂り狂ふ波は吹みつくやうに頭の上へししかつてくる。やつと思ひで船底の室へ降りると、スートの熱氣と濃霧の油の匂がむつとくる。二層位

位の天井に頭はつかへるがやつと坐れる所があつて腰が置いてある。膝を突合せのやうにして漁夫たちと飯を食ふ。食慾は無いが元氣を出して食ふ。

茶碗を置く、船が物凄く揺れるので茶碗が飯茶のこから向ふの端まですべつてゆく。汁碗はひつくりかへる。一杯をきつと思ひて食ふ。

午後六時半、目的の場所へ着、直ちに投網を開始された。北緯五十一度十六分、東經百五十八度四十六分、氣温九度、水温七度、潮流南よりの情況の下に、遅い漁夫たちは岸から四十哩の太平洋の荒海の中で百二十反の網を流してゆく。船は片舷が水面とすれ／＼に傾く。船首が半分波の出へもぐり込む。漁と人の物凄く闘争である。柱にしがみつき、しよきを離れかばひながらカメラを向ける。

投網を終つたのが午後八時半、まだ日は暮れない。明日は午前三時揚網だといふ。船はそれまで網と共に荒天と戦ふのだ。

横になつてみたかとも眠れさうにない。頭がすつと下つて足が持ちこたふかと思ふといふほどに床に叩きつけられる。暗黒、怒號する北洋の荒浪、母船まで三十哩、逃げ込む港は無い、海の大、男だと思ふ。心にいひ聞かせながら大自然の威嚇に凍りつく。底まで震盪される氣がする。漁夫たちは眠つたらしい。彼等は故郷を出て二月、そして後二月、この船から一歩も出ないのだ。風呂等勿論人らしい。顔を洗ふ水さへ不自由なのだ。

### ソ聯快速艇

七月×日  
船が小さくて汚ないし、無頼も持つてゐないから

### ソ聯快速艇

七月×日  
船が小さくて汚ないし、無頼も持つてゐないから

### ソ聯快速艇

七月×日  
船が小さくて汚ないし、無頼も持つてゐないから





一、鮭を、その前に完全な水洗ひをする。



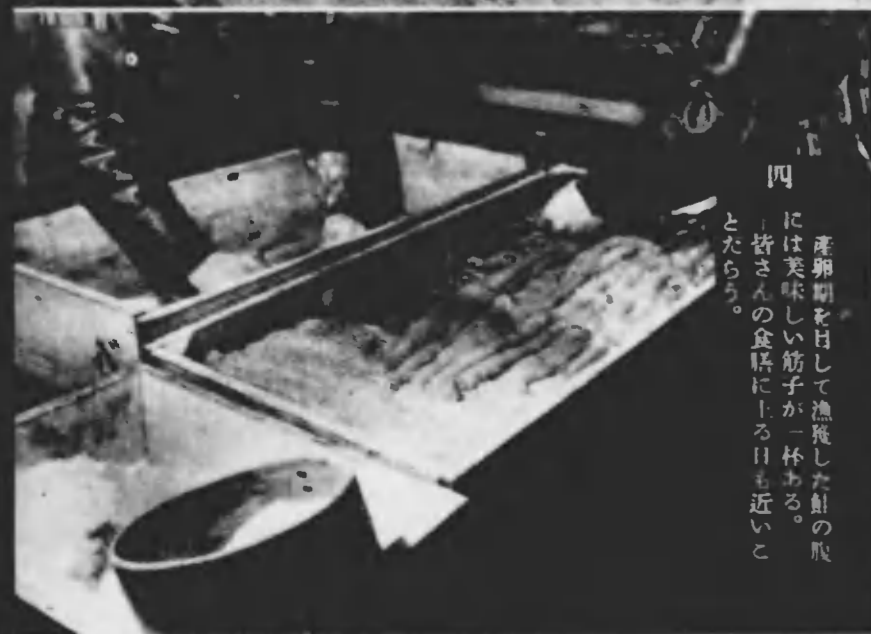
二、鮭とともに大まかに脱しみのある新巻、改良等は種々の分業で行はれる。鮭をとる者、鮭を割く者。



三、鮭にまぶした鮭は行儀よく積上げられる。



六、出来上った鮭はごらんの通り、デッキに漬けられ、箱詰めにする。



四、産卵期を目して漁獲した鮭の腹には美味しい筋子が一杯ある。皆さんの食糧にする日も近いことだらう。

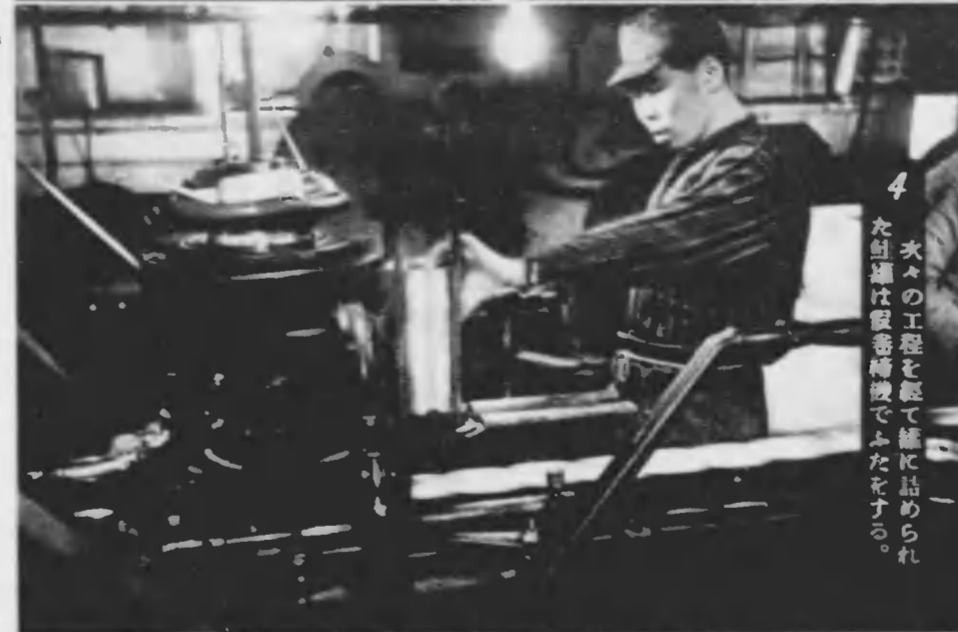


七、鮭加減はどうたらうか、不良品はないだらうかというく、吟味する。

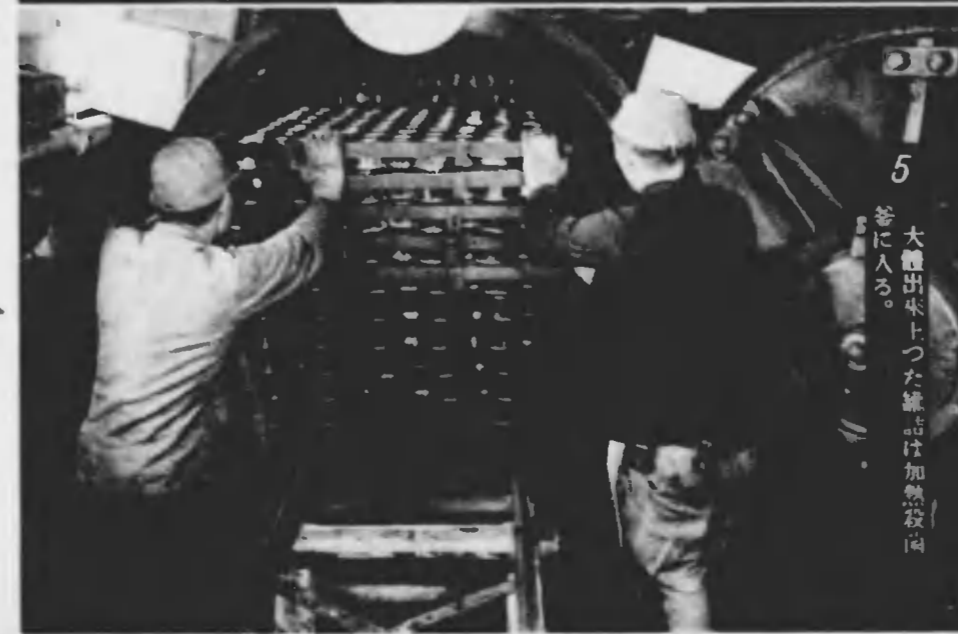
# 益権の洋北の字と平断 巻新と罐鮭



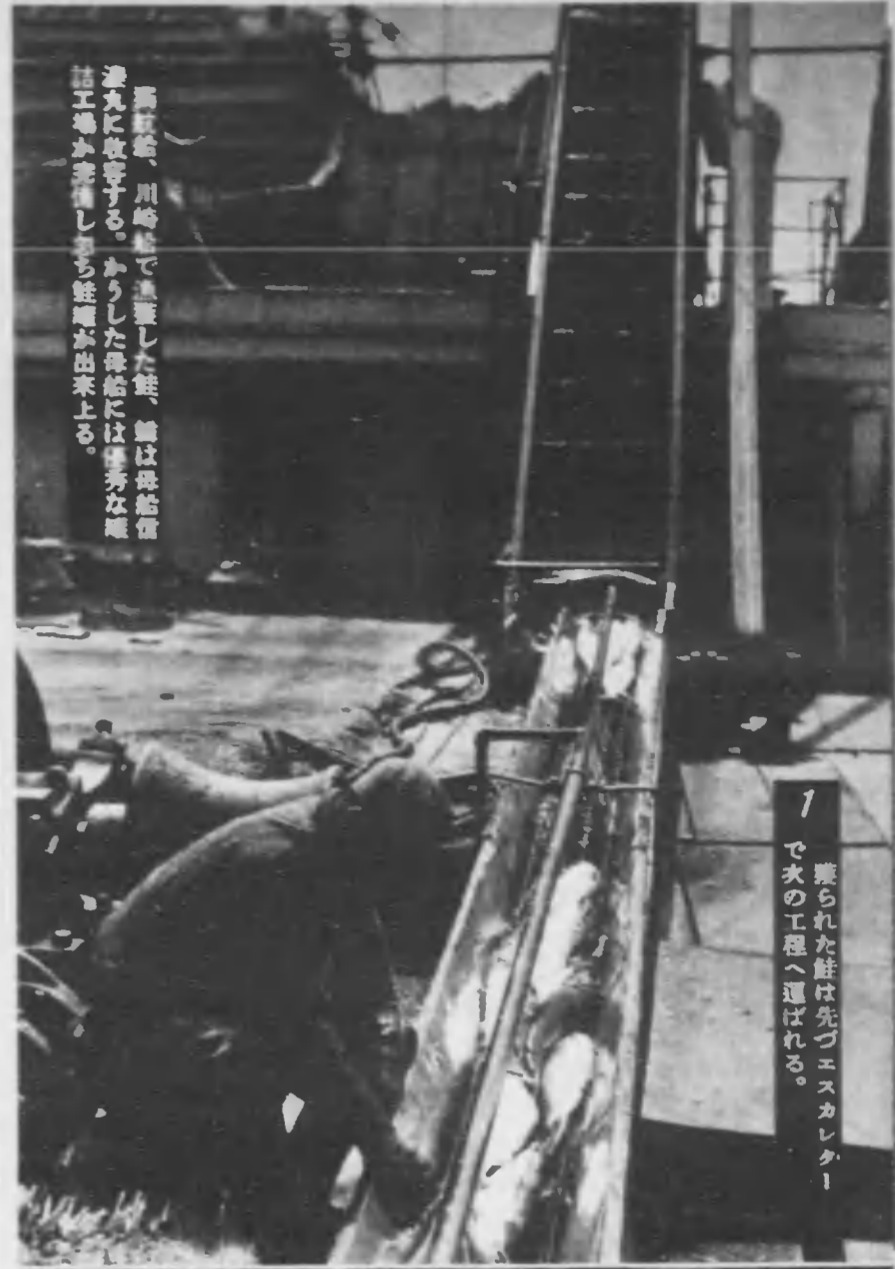
三、頭、尻尾を切れ、腹を割かれ、たはきれいに掃除される。



四、次々の工程を経て鮭に詰められ、たは鮭は製罐機でふたをする。



五、大體出来上った鮭は加熱殺菌釜に入る。

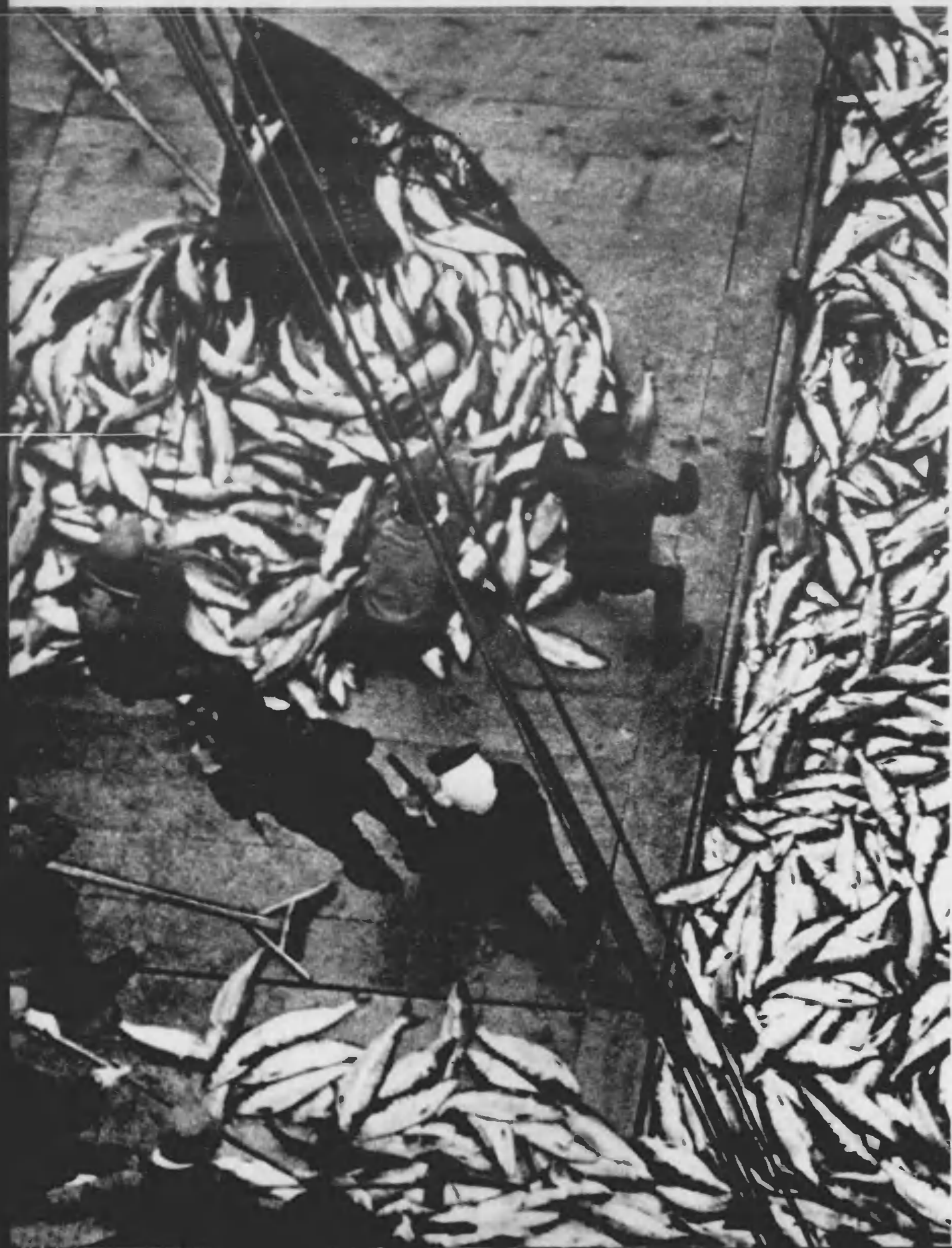


一、獲られた鮭は先づエスカレーターで次の工程へ運ばれる。



二、こは鮭の断頭である。





鮭、鮭、鮭、羅る羅羅に北洋の夕日が映える。

撮影 内閣情報部

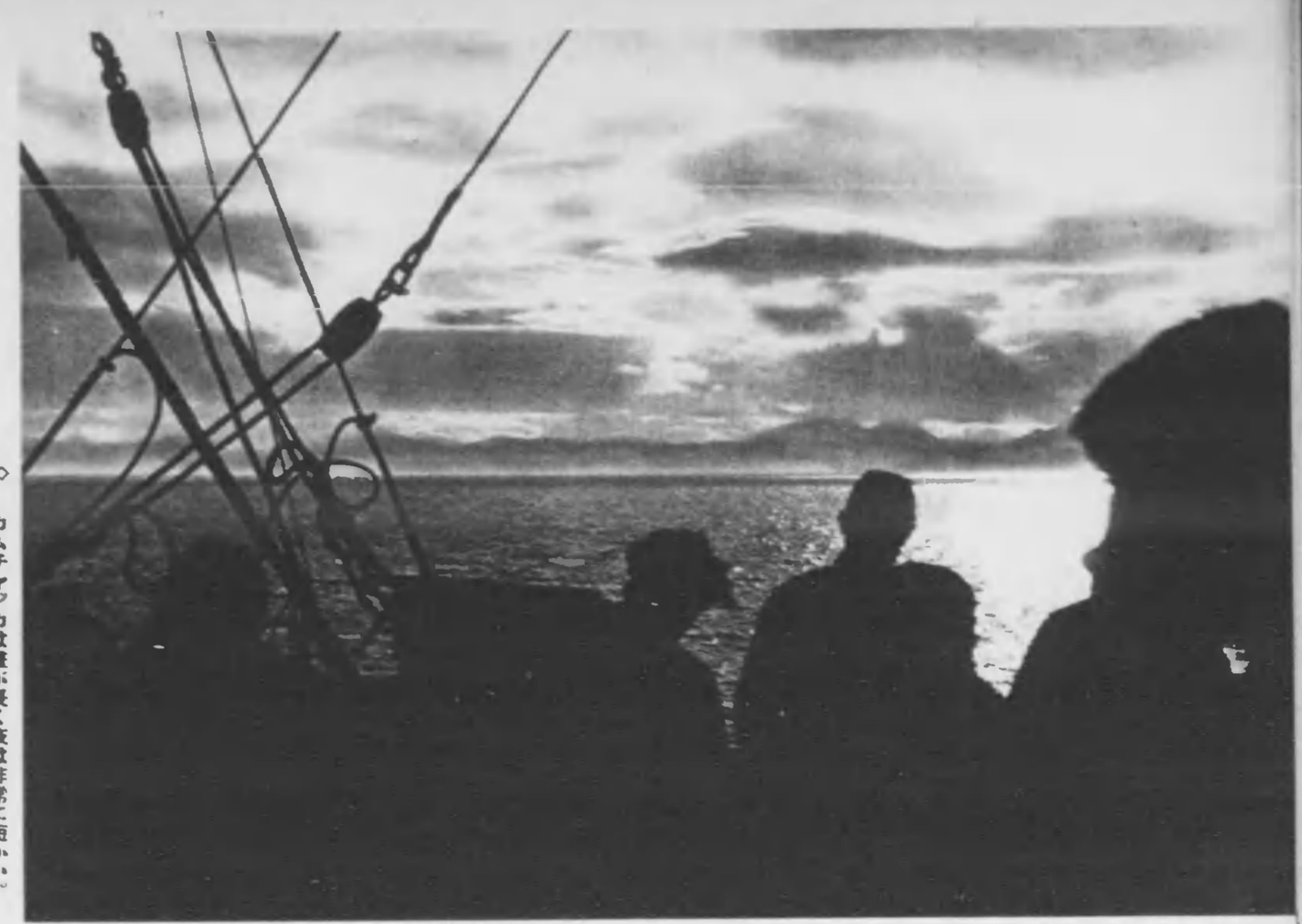


船、船、船、母船目として大漁の漁船が舞つてくる。





⇐ 艇、船の南下を追って漁船も南下する。母船に従って漁船は二百米間隔で網かな海洋を進む。



⇐ カムチャッカは雲が長く夜は非常に暗い。午前二時(日本時間午前零時半)になると夜は白み、午後十一時(同午後九時半)頃やうやく夜が訪れる。夕日落ちるカムチャッカの島影に若い漁夫たちは故郷を懐ひ、陸へ上りたい衝動にかられる。陸を離れて海に三ヶ月ついで目の先に陸は見えても上陸は出来ないばかりか寄港することすら出来ない。若人の郷愁は夕日のやうに赤く燃えひろがる。

# 益權の洋北る宇と平断

⇐ 「アラ、エツサツサア」どせう拘ひに興する漁夫も俄か仕込みの様な演藝師も、一つの漁区を切上げる一くきりの射安に全てを忘れて興する。



⇐ 船員の間にはカメラを操るものもある。仕事合間の寸暇を得ては遠慮なきを郷里の父に母に妻に知らせようと漁夫、漁夫たちは撮影をせがむ。



⇐ 昔とつた件柄、さしやかなからぬ敷製道具を一揃ひ並べた天晴れ元理髪氏の輪前は如何。「いたくねえなあ」あたり前よ、これも年期を入れた本職さまだ。「和やかな會話は海上へ消えてゆく(下右) おい来たそ、俺にも来たそ、はしやく漁夫の手には慣しい郷里の便りがある。「喜んで下さい。あなたはお父さんになりました。丸々と肥えたお父さん、そつくりの男の子です。」若い父ははつきさうに微笑む。





# 九段の父に

# ふ會に



八月六日、豊原財源軍人接見會に招かれて全園津々浦々から上京した戦死者遺児の代表隊第六年在學の男女児子三百二十四名は、護國の英靈神鎮まる靖國神社に参拜、今は亡き父の靈と森嚴の社頭に相見えた。お父さんへお話をしたら靖國神社へおいて、といひ通して胸かしい武勳と共に大陸の戦線に奉と散つたわが父に、遺された愛兒はいまぞ嗚れて再會の願ひが叶へられ、心ゆくまで言葉なき對面の感激に浸つたのであつた。

全園津々浦々から、或は學校の先生に連れられ祖父に附添はれ、或は母の寫眞をしつかと胸に抱いて、遺兒の代表は夫々父に會へる嬉しさに胸高鳴らせつゝ、鐵路はる／＼東京驛に、上野驛に、父新宿驛に到着した。

参拜の遺兒の列が、ザク／＼と玉砂利をふみしめて境内を進むとき、兩側には幾多の人たちが靖列してこれを迎へた。父を待つわが子に思ひ比べて、いぢらしい遺兒の姿に思はず涙する母もある。



拜殿前に整列した遺兒とその附添ひの人たちは、最敬禮の聲に肅然と頭を垂れる。片時も忘れなかつた父、命ひたくてたまらなかつたお父さんはいまそこにある。「お父さん！ 僕です！」「お父さま！ あたしよ！」たまりかねた心に叫ぶたゞ一言、小さい胸に熱いものがぐつと湧きあける。

この朝七時、良くも、皇后陛下から遺兒一同に賜つた御栗子の傳達式が軍人會館で行はれ、遺兒總代表海軍の上澤洋一君がこれを御受けしたが、一同、陛下の御仁慈に感泣した。

撮影 内閣情報部





ふ 會 に 父 の 段 九



「これは戦機に機富りを食はせ、片翼で基地に歸つた有名な探検機です」  
海軍館に陳列される様々の軍事記念品を遺児達は父の戦機を思ひながらながら見學する

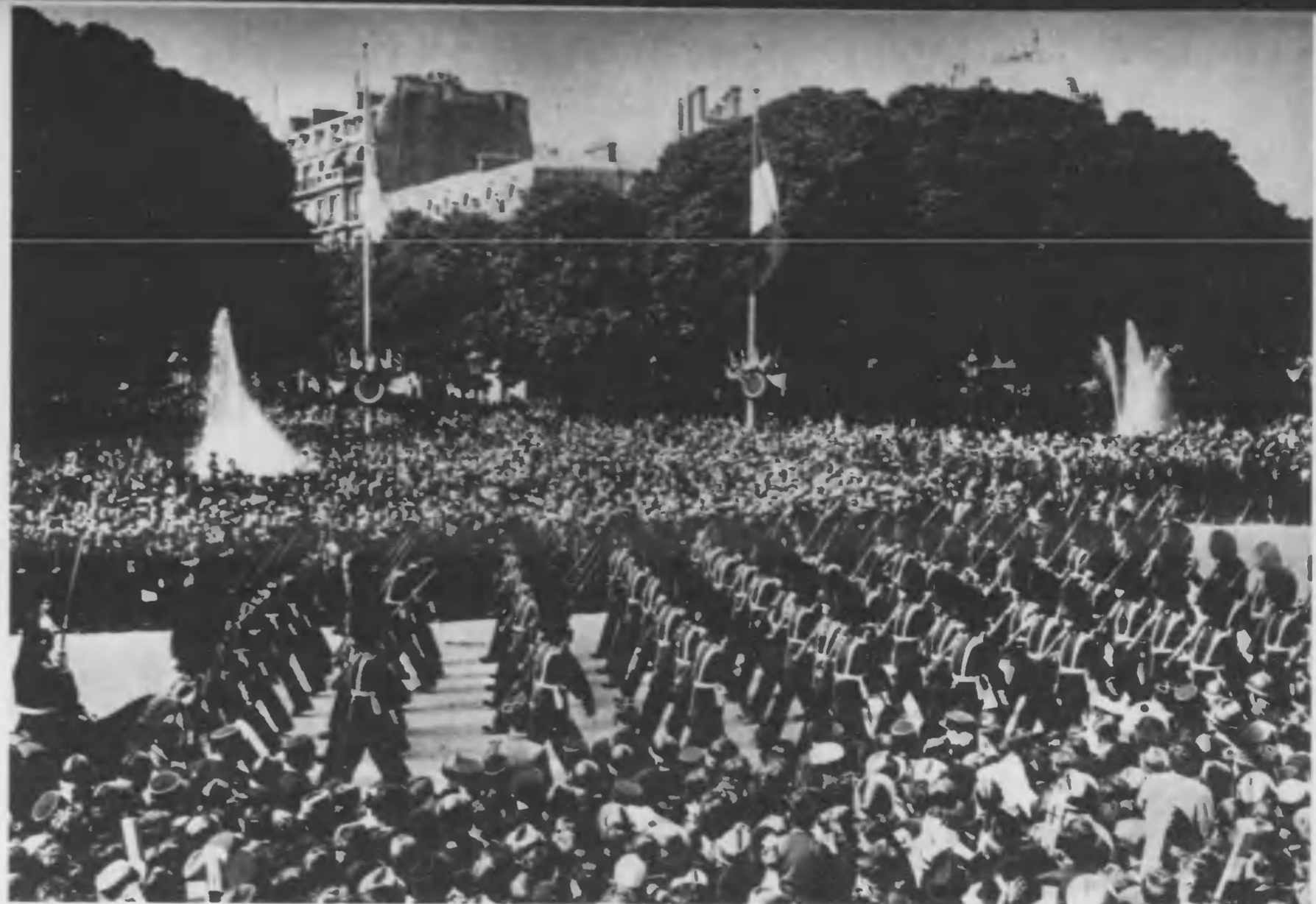
遺児たちの分宿した軍人會館及び附近の旅館では新しい浴衣も作り、下駄も揃へ、温かい心づくしが彼等を持つてゐた。  
「あら、それぢや返してよ」  
お母さん代りに何かとやさしく身の廻りの世話をしてくれる宿泊係のお母さんたちの親切が、長旅に疲れ、張りつめた幼い心に溢みるやうに感じられる。

遠見館の見學を終へた遺児たちは軍人援護會のおちさんから辨當をもらひ、更にバスで明治神宮に参拜、終つて涼しい神苑の木蔭でお姉さんたちからお茶の接待をうけながら今は爽やかな気持ちで帰路を辿る。

忘れることの出来ないお父さんとの對面も終へ、市内見學も済んだ。方々から心づくしのお土産物もらつて遺児たちの心ははや郷里に待つ母、兄妹の許に急ぐ。







↑ 巴里祭に英艦兵参加

巴里祭で知られた七月十四日のフランス革命記念日に、パリでは空前の民主主義祭が行はれたが、これを機会にイギリス陸軍五百名もパリを訪れ、佛陸軍と共に合同示威分列式を挙行した。写真は、パリ市民歓呼の裡に行進する英艦兵。

↓ ドイツ新鋭巡洋艦

「リムツツオフ」号「進水式」  
ブレメン軍港で建造中であつたドイツ海軍の新鋭巡洋艦「リムツツオフ」の進水式は七月一日レグラー元帥臨席の下に行はれた。写真はレグラー元帥の祝辭朗讀。



写真協会

↑ ポーランドの収穫祭  
七月はじりからポーランドでは小麦の収穫が始まる。刈りとられた黄金色の収穫物を山とつんで、今日は農民が地まから小作代をもらふスバラ地方の収穫祭。キキ大橋へ左端もこれに出発、ポーランド田舎色豊かな晴衣をまとふ農夫たちと喜びをともにした。

← 自轉車式飛行機現はる  
ドイツ土木省の建築技師マスコウ氏は既に二十五年間自轉車式飛行機の研究に没頭してゐたが、このほど新式の自轉車式飛行機を完成した。  
同機は翼長十四メートル、重量九十キロ、アルミニウム合金製の操縦席の下部にはペダルがあり、操縦者がこれを自轉車式に踏めば滑走し、飛翔する仕掛けになつてゐる。







甲種一等



後銃よれ守謝感よげ捧

復習室

本號からあなたは何を學んだてせうか? さあ、復習をやりませう。

- 1 日露漁業條約暫定協定はいつ迄有効ですか? (4頁)
- 2 七月一日ブレームン軍港で進水したドイツの軍艦の名は? (18頁)
- 3 北洋漁業はソ聯領海内だけで行はれてゐますか? (4頁)
- 4 八月六日靖國神社に參拜した遺児の代表は尋常何年生ですか? (15頁)
- 5 フランスの革命記念日はいつですか? (18頁)
- 6 日本海を戦で有名な信濃丸は今何になつてゐますか? (6頁)
- 7 皆さんの食膳に上る筋子は何の卵ですか? (9頁)
- 8 北洋のわが漁獲物の輸出額是一年どの位ですか? (4頁)
- 9 カムチャッカ時間と日本時間の時差は? (12頁)
- 10 ボーランドの大統領の名は? (19頁)

右の問題、一問十點としてあなたは何點でせう。

寫眞週報(兼購覽)

所 込 申	價 定
昭和十四年八月十日印刷發行 内閣情報部 東京市神田區本町二丁目 内閣印刷局 東京市神田區大手町	一冊 十錢 半年(前金) 四圓八十錢 一ケ年(前金) 八圓八十錢 半年(前金) 四圓八十錢 一ケ年(前金) 八圓八十錢 半年(前金) 四圓八十錢 一ケ年(前金) 八圓八十錢



★表紙  
年産一億圓の漁獲高をあげる北洋の漁船は獲れども盡きの寶庫である。  
ホーイ、ホーイ、今日も大漁だ、よいやこらさ...  
北洋の漁船と表紙を飾って註と關ふ漁夫のかけ聲は甘く、余韻は長い。  
聲はすれども姿は見えない漁船の眼は陰鬱な北洋に突く秋情である。  
攝影 内閣情報部

過勞は危険!



多忙な人はセヒ毎日二球!  
仕事 仕事 仕事で疲勞が重なる過勞になる。過勞が續くと健康の低下は免れません。  
食欲が減り元氣が衰へ病氣になり易くなり、特に結核や肋膜炎が起り勝ちです。

「理研」のウイタミンは有名な理研研究所で、ウイタミンAとDの配合で、多忙な人の健康増進と疲労回復に効果的です。  
ウイタミンAとDは、皮膚をよこし、血液循環をよくして、疲労の回復を促します。抵抗力を強化して病気を予防します。  
特に呼吸器系、眼、皮膚や結核、肋膜炎に効果的です。ウイタミンAは、免疫力を高める作用があります。多忙な人には、一種の栄養剤です。  
魚肝油の肝油と違って「理研」ウイタミンは、純粋な状態で安心して服用できます。みよい、ビュール球入りで、一錠にウイタミン十五百分(七〇〇國際單位)のウイタミンAを正確に含有してあります。毎日二球つゝ服用すれば十分です。

理研の養劑

研理+ ヴァイタミン三

五〇球 二 一〇〇球 五 一〇〇球 一 (小製品一) 三〇錢(リ) 薬店にあり

總代理店 株式会社 王冠商店



東京新聞 昭和十三年八月十一日 第三版 東京新聞社 昭和十三年八月十一日 第三版 東京新聞社



八月廿一日より  
九月一日まで

# 支那事變國債

## 郵便局出售

大藏省

四千・四五百・四百五十・四百五十二・四百五十二・四百五十二  
千五以上買て郵便局で換領は煩雜の区

内閣印刷局印刷發行

(郵便局で買 - A4切手用紙に貼る)